

追悼・入澤善也会員

2月9日(土)に急逝された入澤会員に対して何通かのお別れの手紙が届きました。代表して3通を紹介させていただきます。

入澤善也くんへ

担当副会長 武海 章
 「早く名前を覚えてもらい、皆勤賞を目指して努力します。」入会に際しての君の抱負はとても君らしい言葉でした。思えば、君が入会したのは私が総務委員長として最後の月だった。同年代でまた仲間が増えて嬉しかったよ。だけど、初参加の委員会が打ち上げで面食らってた。あの時は、ホテルでビール掛けなんかしたもんね。

「後の事、よろしく。」と言ってる様だった。信じたくなかった現実だけど受け入れる事にしよう。生きてる僕らも前に進まなきゃ。ご遺族の方々には、僕らなりに何か出来る事がないか考えていくから少しは安心してください。そうだよ、これからも君と僕らの友情は決して消える事は無いから。今はただ、安らかに眠ってくださいね。

入澤会員に捧ぐ

担当委員長 岩崎康朗
 2月10日正午、私に訃報が飛び込んできました。元気な笑顔で、「15日の担当例会、頑張ろう！」と別れたばかりなのに…。入澤会員は本当に男らしく、優しく、自分をわきまえて、誰に対しても笑顔で接する事の出来る人でした。そんな入澤会員を私は尊敬し、男として大好きでした。

故人を偲び、私達に残して頂いた教訓を無駄にする事が無いよう、精進する事を誓い、西部青年中央会の発展に役立てていきたいと思えます。入澤会員のご冥福を心よりお祈りし、追悼の言葉にいたします。

入澤君との思い出

平成10年度同期 高村和也
 入澤君と私は同期入会でしたが一度も同じ委員会になることはありませんでした。しかし、同期入会の会員で行った忘年会で初めてゆくり話をする事ができました。純朴という形容詞がぴったりの印象を受けました。アルコールはあまり強くないのか真っ赤な顔をしていましたが、それでも本当に楽しそうにお酒を飲んでいた姿が今でも目に浮かびます。入澤君の入会活動は3年に満たないものでしたが、実家の石碑・石材加工のノウハウをもって西部地震の墓石ボランティアで大活躍されたことを私たちは忘れません。今はただゆっくりお休みください。いつかまた一緒に楽しくグラスを傾けられたらと思います。

言わしてごしない Part 9

子供の将来についてよく耳にする親の意見に、「思いやりのある人になってほしい。」というのがある。大切な事だが、人間として当たり前の事だとも思う。しかし改めてそういうメッセージを我が子に託すのは、そうでない大人が多いからだろうか？

さて、我が中央会に目を転じれば如何だろう。思いやりに溢れている会員ばかりだと思いたいのだが。

様々な立場にある、色々な職種の、幅広い年齢の方が中央会には在籍しておられる。当然ひとりひとり皆違う。だからこそ、相手の事を理解する努力を惜しんでならぬ、と私は考える。それには上下関係等は無く、いかなる立場にあろうともだ。

情報の公開(片山知事曰く共有化)が叫ばれて久しい。中央会の情報も会員全員が平等に知る権利を有する。執行部には知らせる義務もある。会に関する情報の質や量が、会員の所属年数の長短や、役職経験の有無などで格差のつけられるような事は断じてあってはならない。

思いやりの心とは相手の立場に立って考える事であろう。自分がされたくない事は相手もされたくない筈だし、してもらって嬉しい事は相手にもしてあげたいと思う。これを念頭に置いて行動する事が思いやりなのではないか。加えて言えば、どんなに形ばかりを取り繕ってもそこに「思い」が無ければ人は動かせない。思いがあれば、不器用な言動にも人は感動すると私は思う。

ここで私は、皆様に聞きたい「あなたは、会員(相手)の顔が見えていますか?」と。

(武海 章)

天声 誠語

20年ほど前になるが交通事故に遭い入院したことがある。そのとき入院していた男子中学生のことが忘れられない。彼は骨のガンで片足を切ったのだ。手術の前の晩、彼は自分の6人部屋の病室で他の患者さんの迷惑にならないように声を殺して泣いていた。しばらくして片足の無くなったその中学生に出会ったとき、彼は猛烈に泣いていた。理由を聞くと自分はこんな体になった以上、デスクワークで食っていくしかないからだと答えた。

何それが無いから出来ないと、自分には何それは無理だという言い訳は見苦しい。彼のような強さを持つ人に成りたいと思う。大切なのは与えられた条件の中で「どうしたら出来るか」である。切羽詰まって真剣に考えれば必ず答えは見つかるものだ。力が足りないのではなく真剣さが足りないのだと思う。

コピーをして名簿にお貼り下さい

(Newカマーズ)

 **小島 竜** O型
 株式会社夢みなと貿易 常務取締役 貿易業
 〒684-0046 境港市竹内団地255番地3
 TEL 0859-47-2200 FAX 0859-45-3225
 H.P 090-4650-2843
 (自宅) 米子市豊ヶ崎4丁目617コンフォート松本1105
 〒683-0845 S 46.10.29 TEL 29-2600

(コメント)
 この度、伝統ある鳥取県西部中小企業青年中央会に入会させて頂くことになりました。夢みなと貿易の小島竜です。私共、夢みなと貿易はこの三月に五期目を迎えたまだまだ地元企業の方々になじみのうすい会社ではありますが、この会に入会し会長をはじめ会員の方々との交流を通じ、存在をアピールして行きたいと思えます。この中央会の歴史に恥じないよう、日夜努力してまいります。御指導御鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

お知らせ

モラル委員会 潮邦昭会員所属企業変更
 (変更前) (南)よしうら (変更後) じごんす
 境港市渡町333-2
 TEL 45-3578 FAX 45-3578


経営委員会 多賀彰穂会員メールアドレス変更
 新アドレス shinkawa@chukai.ne.jp

4月役員会報告

4月定例役員会が平成14年4月1日(月)、米子食品会館に於て開催されました。当日の主な議題は、次の通りです。
 (1) 4、5月例会開催の件
 (2) 収支見込みの件
 (3) その他
 ※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

4月レクリエーション例会案内

と き 平成14年4月21日(日) 19:00~
 と ころ 日吉津村日野川河川敷運動広場
 (雨天の場合 日吉津村立農業者トレーニングセンター)
 時 間 8:00~16:00

 **パンチャオオープン**
 経営委員会 岩崎康朗委員長
 3/29(金) オープン

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 岩田慎介 編集責任者 萬田寿夫 印刷所 東京印刷(株)

3月例会報告



平成13年3月18日(月)、ホテルサンルート米子で政治行政委員会担当の3月例会が開催された。講演に先立ち、浜田副会長の議事進行のもと臨時総会が行われた。その席で、門脇次年度会長より推薦のあった5名の副会長候補(山本良文会員・小椋博之会員・夏野慎介会員・釜田公文会員・中津尾直己会員、以上推薦順)が満場一致の拍手にて承認された。5名の次年度副会長は異口同音に次年度へ向けた熱い抱負を述べられた。その言葉の端々から溢れる情熱と豊かな個性で門脇丸をサポートしつつ、当会を牽引する原動力となっていたと確信した。

さて、今月は、講師に鳥取県副知事平井伸治氏をお迎えして「夢のある街づくりについて」の演題でご講演いただいた。

副知事は40歳。ご自身も青年中央会の年代だということで、「ぜひ意見交換をしたい。」と和やかな雰囲気の中で始まった。平井副知事曰く、「今は時代の変わり目に入っており、足をさらうような大きな波がいくつも押し寄せている。」と。

「ひとつに「地方分権改革」。地方分権は、豊かな住民生活の実現を目指すものだが、同時に地方自治体の力量が問われている。ひとつに「小泉政権の構造改革」。不良債権のオフバランスシート化をもって行われた市場淘汰(「創造的破壊」)は、今後、地方分権を錦の御旗にして地方行政を同じような競争に巻きこむ。

新時代にふさわしい地方行政にしていく中で、スケールを大きくすれば(=広域合併)住民サービスの高度化・専門化が計れ、市町村の地位・権限も向上する[スケールメリット]が、住民参画ということから考えると住民がそれぞれ納得できる大きさが望ましい[コミュニティの維持]。変革の波に飲み込まれるのではなく、変革の波に乗って生活満足度の視点に立って考えて欲しい。

市町村合併は、私達だけの問題ではなく、次世代も含めた問題。私達には将来の地域社会の方向性を決める決定権がある。眼前に広がる21世紀の地平をどのように形づくるかは私達ひとりひとりにかかっている。皆さんの若い感性で夢のある地域社会の未来像を話し合ってもらい、最良の選択をして欲しい。ぜひ夢を実現して欲しい。」と内容であった。

例えを交えたわかりやすい講演であったように思う。今の世を生きる人として、ましてやこの地域で働き、この地域に住んでいるならなおさら最低限は知っておかなくてはならない事のように思う。聞いておいて良かった。

(広報：増井幸一、尼子 健)



温故知新

今回は、第24期ご卒会の景川恭次OBにお話を伺いました。

春の穏やかな日に、鳥取リコー(米子)支店に第24期ご卒会の景川恭次OBを訪ねた。まずは、聞きにくい話をYes、Noで即答してもらおう質問を5問たて続けにぶつける。「中央会をやめたいと思ったことは?」「No、周りの人間に恵まれていた。特に同期入会の人たちとはその後つきあいが続いています。」「一番印象的だったことは?」「夢みなと博での中海テレビの中継。現役役員にもああい体験をぜひして欲しい。」覚えてますよ、美しい「夢みなとレディ」を相手に、レポーターとして奮闘していたあの勇姿!「中央会のいいところは?」「不良会員になっても復活できるという包容力があるところ。それに異業種の会員、年齢の違う会員との話が有効だった。」うむ、同感。「今からでも中央会に入会したい?」即座に「No、もう十分です。」「会長になろうと思ったことは?」「No、サポートする側になりたいという気持ちが強かった。」「景川さんにとって中央会とは?」「楽しませてもらった。「楽しさをみつける」ということを覚えたところ。友人も、行きつけの飲み屋も多くなった。ただし、積極的にならなければ、何も得られないところ。」

忙しい中を不躰な質問にも笑顔で答えてもらった景川OBから、卒会当時と変わらぬ歯切れのよさで最後にご提案頂いた。ますます増えていく卒会生の分の会員名簿の負担金など、現役員だけで支え切れない部分についての受益者負担、だれしも気になりながらなかなか切り出せない話題に、鋭くかつあたたかく切り込んでもらった。在籍10年間のうち半分は役員として中央会を引っ張って来られた景川OB、ありがとうございました。今後も一層のご活躍を!

(広報：岩崎俊和)



青 経 連

3月21日14時から米子市文化ホールにて、鳥取県西部地区青年経済団体連絡協議会主催のまちづくりシンポジウムが開催され、「鳥取県西部のまちづくりを考える」をテーマに、基調講演では、平井副知事がご講演された（内容については今月号ハンサム「3月例会報告」を参照）。

その後、平井氏をゲストパネラーに迎え、青経連の各会長・理事長をパネラーに、パネルディスカッションに移った。当初、各会長・理事長は硬い表情で所属団体の活動内容などを紹介されていたが、平井副知事の「各団体のメンバーさん、今日は本人の意見を言わせてあげてください。」の一言で、とたんに雰囲気は和らいだ。

そんな中、我々が岩田会長は当会のモラル委員会を取り上げ、「痛み」についてこう語られた。「市町村合併については、メリット・デメリットがある。対等合併はないと思う。西部の合併は、米子市がリードをとるだろうが、境港市や他の町村の住人もがプライドを持っている。この方達のプライドと「痛み」を理解できなければ本当の結婚（合併）にはならないと思う。行政主導では限界がある。民間の中でリードをとって進めていかなくてはならない事と感じる。」話の中にもあったが、「まち」がどう変わっていくかは住人である私達しだいである。避けては通れないことなのである。

最後に、岩田会長は「鳥取県西部で唯一2市2郡から構成されている中央会としては、青経連というチームの中において広域合併という宿題に一生懸命取り組まなければならないと思う。」と結ばれた。

(広報：増井幸一)



アニチャー誠司の 突撃! 隣の委員会 ~きずな委員会編~

平成14年2月13日(水)、きずな委員会を取材させて頂いた。今回は講師に株式会社シー・アンド・エヌ代表取締役遠藤雅久OB(第16期ご卒業)をお招きし、「男女共同参画について」という演題でお話を伺った。実際に遠藤OBの経営しておられる有限会社ウェブ・サブ営業チーフ石黒亜貴子氏も同席された。

遠藤OBの会社は女性が半数を占める。それは、お客様への指導は男性より女性のほうが柔和で良いという理由からで、それはインストラクターにも女性を活用していることに見てとれる。業務内容としては主に写真の管理。電子化でコスト削減をはかる。今後はインターネットによる電子人札の形態が多くなると思われるため、そのあたりのアドバイスも仕事となるそうだ。また、ISO取得に拍車がかかっているため、ISO取得と取得後の運用管理の手伝いなどもされる。山陰ナビと提携して顧客に情報を提供するという構想を持っておられる。

「脱サラをして真っ先に考えたことは「社員への正当な評価」だった。全てパートナーと位置付け、社員全員に株主になってもらっている。月次決算は創業当時から良い月も悪い月もオープンにし、全員の基本給もオープン。あとは能力給だ。6ヶ月間の最低目標に対して幾ら還元できるかを決め、それもオープンにしている。現在は500万くらい取る人が1人、200万くらい取る人も1人いる。基本的には青天井。達成できなかった人は0円。基本給は半年終わった7ヶ月目にオーバーしたか、しなかったかで2割ずつアップしたりダウンしたりしている。順調に行けば年間4割もアップする。役職者も半年単位で評価する。下手すると半年間分返上させる。社長の給料も公開している。本当の意味でのパートナーシップの構築のために実験している。男も女も関係なし。ただし、女性のほうが辛抱強いから女性の働きやすいシステムを会社が作ればかなり伸びるのではないかと考えている。アイデアも女性は男性と違うものを持っている。」

講演の後、所属会員全員が時間をオーバーして熱心に質問をしていた。20世紀の経済の不文律「年功序列制」が完全に崩壊していることを身近に感じることであった。

(広報：野川誠司)



“志と実学” PAC特別賞受賞!!

昨年、中海TVで放映された「志と実学」が第6回パブリック・アクセス・チャンネル大賞の特別賞を受賞した。授賞式は3月24日(日)の14時30分よりベルライト米子にて執り行われた。去年1年間で86本放映されたパブリック・アクセス・チャンネルの番組のうち9本が受賞となった。表彰には土井直前会長が参加され、受賞のインタビューで「企画・撮影・編集と全て青年中央会のメンバーで作った作品であるので、この受賞はみんなの力の成果です」と喜びを語られた。大賞の受賞作品は4月に再放送される、「志と実学」の再放送は4月9日(火)・10日(水)の両日の日程で放送される。

(広報：手島武司)



3月度委員会報告

きずな委員会

平成14年3月13日(水) 於：ホールサムインかいけ 出席者/10名
内容/講師講演

演題 「男女共同参画について」

講師：みお産婦人科 事務長 尾形弘次郎氏

講師：みお産婦人科 看護婦 伊達里美氏

情報メディア委員会

平成14年3月8日(金) 於：(株)インサイト 出席者/11名
内容/①ホームページ作成進捗状況について(畠山副委員長)

②ホームページモニタリング

モラル委員会

平成14年3月13日(水) 於：ホールサムインかいけ 出席者/7名
内容/講師講演

講師：米子養護学校 田枝正之氏

演題：学校教育における現状について

経営委員会

平成14年3月6日(水) 於：焼肉いろは 出席者/8名
内容/①2月例会の反省

②今後の委員会活動について

②今後の委員会活動について

Newカマーズ委員会

平成14年3月7日(木) 於：米子食品会館 出席者/15名

内容/新入会員オリエンテーション

政治行政委員会

平成14年3月5日(火) 於：ホテルサンルート米子 出席者/12名

内容/3月例会打合せ

広報委員会

平成14年3月4日(月) 於：デイルラウンジ夢 出席者/14名

内容/①ハンサム4月号について

②知的所有権小冊子発行について進捗状況

③委員会報告と卒会寄稿文集について原稿担当割り当て

総務委員会

平成14年3月6日(水) 於：ホールサムインかいけ 出席者/19名

内容/①レクリエーション例会打ち合せ

②中央会内規の検討

③新入会員入会審査基準の検討

新入会員オリエンテーション開催

去る3月7日(木)、米子食品会館において新入会員オリエンテーションが開催された。今年度で2回目、平成13年度9月入会以降の会員が対象となり、この日の出席者は16名(うち新入会員は8名)であった。

まず高田委員長より挨拶があり、続いて昨年6月に行われた委員会活動発表会のビデオを皆で鑑賞した。その後、中津尾会員から「このビデオは会員ひとりひとり手作りの作品となっており、中央会の力が結集された賜物である。また総務委員会・広報委員会・Newカマーズ委員会などいわゆる裏方の力もビデオ作成において大変重要な位置を占めている。」と説明があった。

桑垣会員からは中央会の歴史について、歴代会長の紹介を当時の思い出話と交えながら楽しく語ってもらった。

山本監事からは機関誌ハンサム発刊の流れについての説明と各周年の記念誌についての説明があった。その中で「記念誌は中央会の活動や歴史が詰まっているので、ぜひ日を通して欲しい。」また、徳中会員からは中央会入会にあたっての心構えとして「高い授業料(会費)を払っているのだから色々吸収し勉強して自分のものにして貰いたい。もう一度新入生になったつもりで45歳まで頑張りたい。」の言葉が印象に残った。

北野会員からはご自身が入会してから今までの中央会活動について振り返ってもらった。

最後に武海副会長より、「新入会員であるうちはわからない事や疑問に思った事を聞いて頂きたい。例会・委員会を漫然と参加せず積極的に活動して欲しい。」と結ばれた。

今回のオリエンテーションは私にとっても新発見・再発見の連続で大変興味深く取材させて頂いた。真剣な眼差しで説明を聞く新入会員を見て、私自身も初心を忘れる事無く、再度気持ちを引き締め直してこれからの中央会活動に取り組んでいきたいと強く感じた。Newカマーズ委員会の皆様、ご協力ありがとうございました。

(広報：渡辺一徳)



入会しては4ヶ月がたち、ようやく中央会にもなれました。3月の委員会にてオリエンテーションに参加し、中央会の意義・存在の大きさに驚いています。

綱領にもあるように、いろいろな研修会や海外視察によって英知・友愛を深め、また皆生トライアスロンのボランティアや西部地震の復旧に活動される。新しい試みとしては中海テレビの番組を会員の皆さんで企画・作成・放送と団結して作られ、あらためてすごい会に入会したなと思います。私自身、少しでも中央会の力になれるよう頑張ります。

(Newカマーズ：岩西 隆)

私は昨年の11月に入会してまだ数ヶ月、今日まで例会・委員会に何回か出席させて頂きましたが、正直まだ中央会の事を全くといっていいほど分かっていません。委員会にて今までしてこられた功績や歴史を先輩方から教えて頂き、私は驚きと同時に、私もこの会の一員になれるだろうか少し不安になりました。しかし先輩方が良い思い出話をしている様に思えて、私もより多くの思い出を作れるようにしていきたいと思いました。

(Newカマーズ：小椋崇永)